

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 452 回 災害に明け暮れた心の重い年でした

2011. 12.25

12月23日に78歳の誕生日を迎えられた天皇陛下。今年は11月に気管支肺炎で入院されたことから体調に配慮して、この日の記者会見をとりやめ、1年を振り返る文書を寄せた。

そこには「災害に明け暮れた心の重い年でした」と綴られており、今なお東日本大震災に心を痛めていることがわかる。

そんな天皇陛下と皇后・美智子様が「3.11」の時、数々の「異例」の行動をとられていたことが分かった。未曾有の震災当日、東京でも多くの帰宅困難者が歩いて自宅に向かったり会社などに泊まったりしたが、皇居内でも、皇居の清掃などを担当する勤労奉仕団が帰れなくなった。余震が続くなか、両陛下は一般参賀者の休憩所にあたる窓明館を開放して宿泊させ、その翌朝には皇后・美智子さまが泊まった人の健康を気遣って、お声をかけたという。

東京電力・福島第一原子力発電所の事故で、首都圏では「計画停電」を余儀なくされたが、両陛下は皇居内を「自主停電」して、ロウソクとランタンの灯りですごした。

天皇陛下ご自身が申し出たそうだ。

3月16日には、天皇陛下が国民へのビデオメッセージで「被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆がさまざまな形で少しでも多く分かち合っていくことが大切であろうと思います」という国民目線の言葉で呼びかけ、さらには那須御用邸の職員用風呂を被災者に開放するなど、次々と「異例」の行動を起こしていた。

(JCASTニュースより:<http://www.j-cast.com/2011/12/23117446.html>)

もう二度とあんな思いはしたくない、あんな光景は見たくない...悲惨極まる被災者達、場当たりの無能な政治家に翻弄され続けた沖縄の人達、彼らの心と身体は、この一年、どれだけ苛まれ、深く苦しみ傷ついただろうか。ハッ場ダム工事中止も、高速道路無料化も、国会議員の定数削減も、バラエティショー並みの派手な事業仕分けもすべて嘘。国家公務員の給与減額支給措置については人事院勧告を無視、むしろ増額支給とは、どこまで国民を愚弄するのか。これほど国会議員を嫌いと思った年は、なかったはずである。政治への信頼と期待は地に落ちた。

人を騙し平気で嘘をつき、自分だけの利権を得るのを詐欺師という。

国会議員と言う連中、彼らと一体どこが違うのか！～そんな陰口が聞こえてくる。

「...今年は春には、東日本大震災が起こり、また秋には、台風などによる大雨で多くの人命が失われました。遺族や被災者のことを思うと心が痛みます。...そのような中で、多くの人々が被災者のために力を尽くしていることを知り、非常に心強く思っています。厳しい年であった本年も、もうわずかになりました。これからも私どもは被災者のことを忘れることなく、国民皆の幸せを願って過ごしていきたいと思っています。来る年が皆さん一人ひとりにとり、良い年であるよう祈っています...」

天皇陛下のお言葉が、唯一心に残る、温かい慰めであった。

大変な「年」が終わろうとしている。来年こそは...！ 一年間ありがとうございました。